

アフタヌーンセミナー 9 [AS9]

日時：2026年4月10日(金) 14:30～15:30

会場：Room 5 411+412 (福岡国際会議場)

4月10日(金)

GLAUKOS
TRANSFORMING VISION

第130回日本眼科学会総会アフタヌーンセミナー9 (AS9)

Earlier surgical intervention
in glaucoma treatment

— 緑内障治療早期手術介入の可能性 —

Vol.3

日時

2026年

4月10日(金)

14:30

15:30

場所

Room 5

福岡国際会議場
4F 411+412

座長

相原 一 先生(東京大学)

MIGSの普及により、線維柱帯流出路に関する知見の蓄積と術式はこの数年で一段と定着してきている。Vol.1、Vol.2 では“iStent”の作用機序・適応、薬物療法との位置づけ、長期安全性のエビデンスを共有し、臨床判断の枠組みを整理してきた。本年の Vol.3 はその更新として、“より早い介入”の妥当性と臨床導入を日常診療の実情に照らして多角的に検討していく。

本セミナーでは4人のエキスパートに現在の緑内障治療における“iStent”の位置づけを解説していただき、早期の手術介入に向けた一助となる情報を提供したい。

演者

溝上 志朗 先生

(愛媛大学)

アドヒアランスと視野維持の観点
からみた早期手術介入の意義

村上 祐介 先生

(九州大学)

早期発見・早期治療！
～iStentを使用する意義～

森 和彦 先生

(バプテスト眼科長岡京クリニック/
京都府立医大)結果につながる選択と手技
～iStent処方の方と
iS2手技のコツ～

植田 俊彦 先生

(二本松眼科病院)

組織温存で考えるMIGS
～房水流出機序・iStentの
意義と安全性の要点～

| 共催 | 第130回日本眼科学会総会 / グラウコス・ジャパン合同会社

共催：グラウコス・ジャパン合同会社